

**平成30年度における
読書活動推進施策について
(報告)**

令和元年6月

秋田県読書活動推進本部

目 次

I	はじめに	1
II	第2次基本計画の概要と施策推進状況	2
III	読書活動推進施策	8
1	家庭における読書活動の推進	
◆	あなたの「読みたい!」をサポートします	
(1)	「家族で読書」運動の提唱と普及	8
(2)	子どもの読書推進	8
(3)	中・高校生の読書推進	9
(4)	高齢者の読書推進	9
(5)	図書館の利便性向上と利用促進	10
◆	「読書は楽しい!」の気持ちを広げます	
(1)	読み聞かせお薦め絵本の紹介	12
(2)	ホームページやブログ等を活用した情報発信	12
2	学校・職場における読書活動の推進	
◆	あなたの「読みたい!」をサポートします	
(1)	就学前施設における読み聞かせの推奨	13
(2)	子どもの発達の段階に応じた読書活動支援	13
(3)	学校図書館の活性化支援と地域開放	14
(4)	大学図書館と県立図書館との連携強化	16
(5)	職場における読書環境の整備	16
(6)	仕事や就労に関連する読書支援	16
◆	「読書は楽しい!」の気持ちを広げます	
○	児童・生徒・学生の読書への興味・関心を高める取組	17
3	地域における読書活動の推進	
◆	あなたの「読みたい!」をサポートします	
(1)	様々なシーンで読書に親しむ活動の推進	19
(2)	市町村立図書館等の利用促進	23
◆	「読書は楽しい!」の気持ちを広げます	
(1)	読書ボランティア等への支援	24
(2)	「秋田県読書フェスタ」の開催	25
(3)	デジタルアーカイブの活用促進	26

4 県民協働による読書活動の推進

◆あなたの「読みたい！」をサポートします

- (1) 県と市町村との協働による推進体制の強化 26
- (2) 県民の寄贈によるリレー文庫の普及 27
- (3) 青少年健全育成における読書活動の推進 27
- (4) 高齢者への読書活動推奨 28
- (5) 視覚障がい者の読書推進 28
- (6) 民間企業・団体等との連携による読書活動の推進 28

◆「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

- (1) 「ビブリオバトル」の普及と大会開催 30
- (2) 「読書絵はがきコンクール」の開催 31
- (3) 幼少期からの読書活動推進体制の強化 31
- (4) 「県民読書の日」の啓発 31
- (5) 読書の楽しさを伝えるために活動している県民の紹介 . . . 33

5 効果測定項目と数値目標・実績一覧 34

I はじめに

読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築にも寄与することから、県では、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）を制定し、平成22年4月1日から施行している。

また、条例に基づき、平成23年3月に「第1次秋田県読書活動推進基本計画」（以下「第1次基本計画」という。）を、平成28年3月に「第2次秋田県読書活動推進基本計画」（以下「第2次基本計画」という。）を策定し、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めている。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、平成30年度に第2次基本計画により実施した施策を議会に報告するため、その概要を取りまとめたものである。

○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。

3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

《 読書活動推進体制 》 平成31年4月1日現在

●秋田県読書活動推進基本計画の進行管理

秋田県読書活動推進本部《知事を本部長とし、各部局長で構成》

●施策の一体的推進

秋田県読書活動推進連絡会
《市内関係12課所で構成》

総合政策課	長寿社会課	障害福祉課
次世代・女性活躍支援課		
教育庁総務課	幼保推進課	義務教育課
高校教育課	特別支援教育課	生涯学習課
県立図書館	生涯学習センター	

●市町村との協働による推進

秋田県読書活動推進連絡協議会
《県と25市町村で構成》

市町村企画担当課
市町村教育委員会読書活動推進担当課
県企画振興部総合政策課
県教育庁総務課
県教育庁生涯学習課

◎事務局

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

秋田県読書活動推進本部（秋田県企画振興部総合政策課県民読書推進班）

TEL：018-860-1216

FAX：018-860-3873

E-mail：seisaku@pref.akita.lg.jp

*公式ウェブページ「あきたブックネット」<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/31730>

Ⅱ 第2次基本計画の概要と施策推進状況

第2次基本計画のねらい 生活の場に根付いた読書活動の推進

第2次基本計画の施策体系の4つの柱

- 1 家庭における読書活動の推進
- 2 学校・職場における読書活動の推進
- 3 地域における読書活動の推進
- 4 県民協働による読書活動の推進

県民運動推進の視点

- ・あなたの「読みたい！」をサポートします
- ・「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

目標(H32)

- 「本を読むのが好きだ」、「読書習慣がある」と答える県民の割合が80%以上
- 週3時間以上(1日30分以上)読書をしている人の割合が70%以上

県では、条例に基づき、第1次基本計画（平成23年度～27年度）により、県民の読書活動の推進に取り組み、「県民読書の日」の制定や県民参加の読書活動を展開した。また、市町村立図書館や公民館図書室、学校図書館を拠点とする地域の読書環境の充実に努めたほか、全市町村で「子ども読書活動推進計画」を策定するなどの成果を上げてきた。

第2次基本計画（平成28年度～32年度）では、「家庭」、「学校」、「職場」、「地域」という県民の生活の場に応じて、県民の共感を高めながら施策を展開するとともに、市町村、企業、民間団体等と連携・協力し、県民総ぐるみの読書活動を一層盛り上げていくこととしている。

県民が、いつでも、どこでも、だれでも、本に親しむことができる環境の中で、読書でコミュニケーションや仲間づくりを広げ、これからの地方創生を支える人づくりにつなげることにより、県民や民間団体等による『高質な田舎』を実現し、「日本一の読書県」を目指していく。

平成30年度施策推進状況

1 家庭における読書活動の推進

家族で読書を楽しみ、読書習慣の形成と家族間のコミュニケーションを図るため、「家族で読書おすすめ50選vol.2」のパンフレットを全小学校1年生に配布した。

県立図書館においては、子どもの読書を推進するため、子ども向け資料の計画的な整備や、読書に関する相談活動・おはなし会を実施した。また、中・高校生の図書館利用を促進するため、「teens'コーナー」の資料整備を図り、ティーンズ世代の悩み解決に役立つ本や、ティーンズ向けの絵本・雑誌を配置したほか、一般向けの資料からティーンズにお薦めしたいものを選んでコーナーを設置した。

図書館の利便性向上と利用促進に向けては、資料収集方針に沿った選定を計画的に実施し、所蔵資料の充実を図るとともに、健康や介護、子育てなど、生活上の課題解決のための資料を生活支援コーナーとして充実させたほか、金融セミナー等を実施した。

また、多様なジャンルの大活字本の提供やボランティアによる朗読サービス等により、視力が低下

した高齢者等の読書を支援した。

読み聞かせお薦め絵本として選定した「マザーズ・タッチ文庫」や各種サービス・イベント等の情報を、県のホームページや県立図書館が新しく開設したFacebookページなどを活用して定期的に発信したほか、県内外の読書に関する新しい情報をTwitter公式アカウント「あきたブックネット」で随時提供した。

2 学校・職場における読書活動の推進

就学前施設における読み聞かせを推奨するため、保育者や新規採用者に対し、読み聞かせの意義や教材としての「絵本」の意義に関する研修会を実施した。

小・中・高等学校及び特別支援学校においては、子どもたちの発達段階に応じた読書活動をサポートする情報提供を行ったほか、校舎内の身近な場所に図書コーナーを設置するなどにより、読書意欲の喚起や読書環境の充実に努めた。

また、教育庁の専門職員が、小・中・高等学校を訪問し、学校図書館の環境整備や活用状況について把握するとともに、先進事例の紹介や改善のための助言を行った。また、文部科学大臣表彰を受けた学校の特色ある取組等を、「読書活動だより むすぶ」で紹介した。

県立図書館においては、高等学校・特別支援学校の図書館担当者からのリクエストを受けて図書セット資料の更新を行い、児童生徒の読書環境の整備を支援したほか、県立図書館と相互協力協定を締結している大学図書館間で、各館の所蔵資料を活用し、相互貸借を推進した。

「読書活動推進パートナー支援事業」により設置された図書コーナーは、設置施設の従業員にも利用されており、職場における読書環境の整備にもつながっている。

また、小・中・高等学校のセカンドスクールの利用による図書館職場体験や、大学生のインターンシップ受入の際に、校種別に合わせた体験内容を提供しているが、読書に対する関心や、図書館の仕事・役割について理解が深まったという声が多く寄せられている。

3 地域における読書活動の推進

若者を中心とした県民の読書意欲を喚起するため、県民の注目度が高い県内のトップアスリート等による読書啓発動画を制作し、動画配信サイトYouTubeで配信した。

また、「秋田県花いっぱい運動の会」や「子育て応援団実行委員会」など、様々な県民運動と連携したイベントを実施したほか、4月23日の「子ども読書の日」及び「こどもの読書週間」における取組の周知に努めた。

生涯学習センターでは、生涯学習としての読書活動を奨励しているが、文学関連の講座受講者が中心となって発足した自主学習グループが自主企画講座を開催するなど、学習が行動に結びつく環境づくりが推進されている。

市町村立図書館等の利用促進に向けては、県立図書館や県子ども読書支援センターの資料の市町村立図書館への貸出しや、職員等を対象とした研修会の開催などを行った。

市町村立図書館や学校・保育園等において読み聞かせ・朗読等を行う読書ボランティアを新規に養成するため、世代別ボランティア養成講座や、そのネットワーク化とスキルアップを図るためのボランティア交流会の開催等を行い、地域の読書活動を支える人づくりを行った。

さらに、11月1日の「県民読書の日」を中心とする一定期間(10月20日(土)～11月4日(日))を「秋田県読書フェスタ」期間とし、中学生・高校生ビブリオバトル全県大会等の県主催事業のほか、全ての市町村の図書館・公民館等において、おはなし会や講演会等の読書イベントを集中的に開催することで、地域における読書活動推進の気運を高めた。

4 県民協働による読書活動の推進

平成28年5月に設置した「秋田県読書活動推進連絡協議会(県・市町村の企画担当課と教育委員会読書活動推進担当課で構成)」において、県民の読書環境の充実に向けた意見交換や優良事例の共有を行ったほか、県と市町村が協働で、「読書活動推進パートナー支援事業」に取り組んだ。

県民からの寄贈による「読んだッチ・リレー文庫」については、保育所や医療機関などに配置され、子どもたちの身近な場所での読書環境づくりを推進したほか、秋田県青少年の健全育成と環境浄化に関する条例に基づき推奨する優良図書を県民に周知し、青少年健全育成における読書活動を推進した。

また、高齢者施設に対し、高齢者への読書活動推奨や図書館の活用方法を情報提供したほか、高齢者が参加する出前講座では、図書館から大活字本やシニアの関心を惹きつける本を借用して紹介し、高齢者の読書意欲を喚起した。

秋田県点字図書館においては、ボランティアの協力により、点字図書や音声図書等の製作を行い、視覚障がい者の読書機会の充実に努めた。

民間企業・団体等との連携については、企業が雑誌のスポンサーとなって県立図書館等へ雑誌を提供することにより、雑誌コーナーの充実が図られたほか、書店団体等と連携したイベントなどを実施し、県民の読書活動を推進した。

「ビブリオバトル」については、中学生・高校生の地区大会と全県大会を開催し、読書の喜びを発信した。全県大会の会場では、各高校図書委員会のお薦め本の紹介パネル展示や、書店による書籍販売を行うなど、新たな読書のきっかけづくりに繋がる場を提供した。

11月1日の「県民読書の日」の啓発事業として、開催市である能代市や関係団体と連携して実施した「ふるさとの文学と読書のつどい2018in能代」では、秋田をテーマとして募集した「ふるさと秋田文学賞」の表彰式や、読書芸人として知られる光浦靖子氏によるトークショーを行い、県民の読書活動への関心を高めた。

生涯学習センターでは、絵本の読み聞かせや点訳をするボランティアや、郷土にゆかりのある作家の研究会などを取材して、行動人ウェブサイト^{こうどうびと}で紹介し、読書推進に主体的に取り組む県民の活動を支援した。

また、平成29年6月に「企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)」対象事業に認定された「読書活動推進パートナー支援事業」と「読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業」については、平成29年度から令和元年度までの3年間に実施することとしている。

平成30年度の「読書活動推進パートナー支援事業」の実施概要については5～6ページに、「読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業」の実施概要は7ページに記載のとおりである。

平成30年度「読書活動推進パートナー支援事業」について

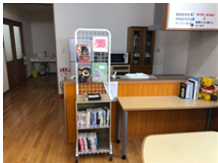
○事業概要

県では、「日本一の読書県」を目指して、県民が身近な所で読書に親しむことができる環境づくりを進めるため、企業や団体、市町村との連携により、平成29年度から令和元年度まで「読書活動推進パートナー支援事業」を実施している。

○取組内容

企業や団体の施設内や地域のコミュニティスペースなどに図書コーナー等を設置した市町村に対し、図書や本棚の購入費などの初期費用を助成した。

H30取組状況（8市町村17施設に設置）

市町村名	設 置 施 設	整備内容	事 業 効 果
横手市	○えがおの丘（温泉・運動施設） 	・図書89冊 ・本棚 2個	・幅広い世代の住民が、休憩室を利用しながら長時間滞在することから、入浴や運動の前後に気軽に本を手に入れている。 ・温泉や運動に関連した選書も充実させていることから、住民の健康増進にも寄与している。
鹿角市	①十和田小学校児童クラブ ②八幡平なかよしセンター ③月山の郷（地域密着型介護老人福祉施設） ④まちっこ（多世代交流スペース）  ⑤どまっこ（多世代交流スペース） ⑥ショートステイ大寿十和田 ⑦アルパス（スポーツ複合施設） ⑧十和田市民センター ⑨錦木地区市民センター	・配本用本棚セット 9セット 	・企業等の協力により図書館の配本所を施設内に開設し、定期的に配本を入れ替えている。 ・本事業により、9施設の配本所の本棚を統一して可動式のディスプレイネットとセットにしたことで、「図書館からのお知らせ」や「本の紹介ポップ」なども一体的に発信できるようになり、住民の読書環境の整備や利便性の向上につながっている。
大仙市	①大仙市市民活動交流拠点センター ②大曲厚生医療センター 	・図書53冊 ・ブックトラック 2台	①展示会や通勤、通学の待ち時間、資料作成等で施設を利用する方々が本を手にとって、気軽に読書を楽しんでいる。 ②利用者や病院関係者の憩いの場として広く親しまれている。ブックトラックは簡単に移動できるので、病室まで運んで本を選んでもらうことができる。

市町村名	設 置 施 設	整備内容	事 業 効 果
北秋田市	○北秋田市民病院 	・図書 94 冊 ・本棚 1 個 等	・患者とその家族のほか、病院関係者等の市民も「みんなの本棚」を利用している。 ・本事業の実施により、幅広く市民の利用が増え、普段図書館に来館する機会がない市民の読書意欲の喚起につながるが見込まれる。
八峰町	○さくら園(指定障害福祉サービス事業所) 	・図書 97 冊	・設置施設周辺には、図書室等がなかったが、「さくら文庫」として町民が利用できるようになった。 ・自宅で落ち着いて読書したい町民のために、貸出名簿を設置し、町民に貸出しできるようにした。
五城目町	○みんなの店あさいち 	・図書 100 冊 ・本棚 2 個	・朝市の買い物客を始め地域の方が多く訪れているが、利用者からは「気軽に読書ができ、くつろげる」と好評を得ている。 ・貸出しも充実してきており、読書支援のほか、コミュニティーの場としても充実している。
羽後町	○仙道てんぽ（お互いさまスーパー） 	・図書 94 冊 ・本棚 1 個	・山間部にある施設に、幅広い世代を対象とした図書を配置したことで、地域住民が新しいジャンルの本を楽しんでいる。 ・図書館で借りた本をそこで返却できることから、これまでよりも図書館を身近に感じる住民が増えている。
東成瀬村	○やまゆり温泉ホテルプラン 	・図書 84 冊 ・本棚 2 個 等	・温泉、スキー、アウトドア関連など、東成瀬に関係が深い本を始め、様々な絵本や実用書等を設置し、幅広い世代が読書に親しめる環境づくりを行った。 ・入浴後の待ち時間やスキーの休憩時間などに、多くの方が本に触れ、読書を楽しんでいる。
8 市町村	17 施設	図書計 611 冊	

平成30年度「読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業」について

○事業概要

県教育委員会では、読書に親しむ多様な機会の提供や、読書の楽しさを発信できる人材の育成等を通じて、県民の読書習慣の一層の向上に向けた取組を推進するため、出版関係企業や団体等との連携により、平成29年度から令和元年度まで「読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業」を実施している。

○取組内容

読書に親しむ段階を、ホップ（読書との出会い）・ステップ（読み聞かせをして本の楽しさを伝える）・ジャンプ（読書の価値や意味を発信する）の三つに分け、それぞれの段階に応じた取組を行った。

I ホップ ～さまざまな読書の楽しみ方の提案・啓発

- ①超大型絵本のおはなし会・絵本作家のおはなし会
 - ・4会場 参加者数合計664名
- ②調べ学習講座
 - ・小学生や教員等を対象とした百科事典の調べ方講座
 - ・5会場 参加者数合計115名



超大型絵本のおはなし会

II ステップ ～読書の楽しさを伝える人材の育成

- ①世代別読み聞かせボランティア養成講座
 - ・高校生・パパママ・シニアコース 参加者数合計124名
 - ・詳細は24ページに掲載
- ②全県読み聞かせボランティア交流会
 - ・秋田市で開催 参加者数60名
 - ・詳細は24ページに掲載
- ③POP作り研修講座
 - ・児童・生徒や教員等を対象としたお薦め本POPの作り方講座
 - ・4会場 参加者数合計90名



読み聞かせボランティア養成講座
（高校生コース）

III ジャンプ ～読書の喜びを発信

- ①世代別ビブリオバトル大会
 - ・地区大会 中学生・高校生各6会場
出場者数88名 実行委員（高校生）41名
 - ・全県大会 平成30年10月20日（土）
出場者数14名（中学生6名・高校生8名）
 - ・詳細は30ページに掲載
- ②SNSによる読書情報の発信
 - ・高校生のお薦め本を秋田県公式Twitter「あきたブックネット」 (@akita_dokusho) で紹介した。
（11月～12月／14冊）



ビブリオバトル全県大会

○その他

秋田県書店商業組合等との連携により、おはなし会やビブリオバトル等の会場で、関連図書や絵本の販売が行われた。また、教職員や図書館職員等を対象とした児童図書展示会が県内3会場で開催され、広報や後援による協力を行った。

Ⅲ 読書活動推進施策

1 家庭における読書活動の推進

◆あなたの「読みたい!」をサポートします

(1)「家族で読書」運動の提唱と普及

家族で読書を楽しみ、読書習慣の形成と家族間のコミュニケーションを図るため、全小学校の1年生を対象に、「家族で読書おすすめ50選vol.2」のパンフレットを、入学時に合わせて配布した。



◀「家族で読書おすすめ50選vol.2」パンフレット

○配布部数

全小学1年生と小学校 7,036部(195校)

パンフレットでは、「子どもに絵本を読み聞かせる時間は、大人にとっても読書を楽しむ時間です」と語りかけている。

❖参考DATA

週3時間以上(または1日30分以上)読書をする人の割合

: (H30) 44.1%

(2) 子どもの読書推進

①子ども向け資料の充実

県立図書館の「えほんのへや」「調べ学習コーナー」の資料の計画的な整備を図り、様々なテーマでの月替わりの絵本展示のほか、こどもの読書週間(4/23~5/12)や夏休み期間に合わせた児童書の展示等を実施し、子どもの図書館利用を促進した。

❖参考DATA

県立図書館における0~12歳の年間新規登録者数: (H30) 451人

②子どもの読書に関する相談活動、おはなし会等の充実

「えほんのへや」で、県子ども読書支援センターの子ども読書アドバイザー等による読書に関する相談活動を年間69日実施し、286件の相談が寄せられた。おはなし会は、24回実施し、676人が参加した。

また、県子ども読書支援センター支援員(読書ボランティア)が作成した年齢別・テーマ別のお薦め本リストを提供するなど、子どもの年齢や興味・関心に応じた読書ができるよう支援し、様々な本に接する機会を増やした。



▲夏のおはなし会の様子



▲年齢別・テーマ別のお薦め本リスト

③医療・保健分野との連携による子どもの読書習慣づくり

市町村と協働して平成29年度に作成した、子育て支援の視点で市町村立図書館等を紹介するリーフレット「絵本であそぼ！ー8地域版ー」を、ウェブサイトに掲載したり出前講座で活用するなど、幼少期からの読書習慣の大切さと図書館利用を呼びかけた。

(3) 中・高校生の読書推進

県立図書館の「teens'コーナー」の資料を整備し、進路・趣味・部活・心や体など、ティーンズ世代の悩み解決に役立つ本や、ティーンズ向けの絵本、雑誌のほか、一般向けの資料からティーンズにお薦めしたいものを選びコーナーを設置するなどして、中・高校生の図書館利用を促進した。



▲teens'コーナー

❖参考DATA

県立図書館における13～18歳の年間新規登録者数：(H30) 179人

(4) 高齢者の読書推進

①高齢者向け資料の整備、シニアコーナーの充実

県立図書館の「シニアコーナー」に趣味や生きがいに関する資料を整備し、多様なジャンルの大活字本を収集・提供して、高齢者の図書館利用を促進した。

大活字本コーナー▶



❖参考DATA

県立図書館における60歳以上の年間新規登録者数：(H30) 260人

②高齢者などへの読書支援

視力が低下した高齢者や障がい者のためのボランティアによる朗読サービス(電話、対面、録音データの送付)や、障がい者と健常者が一緒に参加できる朗読会等の情報について、出前講座やSNS等で周知を図った。

また、インターネット環境がない高齢者などであっても「ふるさと秋田文学賞」の受賞作品を読むことができるように、作品本文のみのコピー郵送サービス(送料は本人負担)を行い、6件の利用があった。

❖参考DATA

電話(対面)朗読ボランティア活用者実数：(H30) 12人

※秋田市立図書館では、次の朗読ボランティアグループが視覚障がい者のための電話(対面)朗読サービスを行っている。利用者が固定化する傾向があるため、リーフレット等で高齢者等に呼びかけるなどの取組をしている。

・レモンの会(明徳館) (H30) 電話朗読 218件

※電話朗読のほか、録音したCDやUSBを送付するサービスも行っている。

・かもめ(土崎図書館) (H30) 電話朗読 190件
対面朗読 18件

※朗読ボランティア「はまなす」による朗読会を3回行った。

(5) 図書館の利便性向上と利用促進

①県立図書館の資料の整備と充実

多様な読書ニーズに対応できるよう、資料収集方針に沿った選定を計画的に実施した。また、複数の専門的な外部機関から資料選定について協力を得て、所蔵資料の充実を図った。

❖参考DATA

県立図書館における年間購入冊数：(H30) 14,250冊

②生活課題解決のための読書や図書館利用の促進

県立図書館における健康や介護、子育てなど、生活上の課題解決のための資料整備や、関係機関のパンフレットの提供等により関連コーナーの充実を図ったほか、金融に関するセミナーを実施した。また、県内の市町村立図書館等に対し、他館で実施されている課題解決支援サービスについての情報提供やコーナー設置の助言等を行った。



▲生活支援コーナー



▲金融セミナーの様子

❖参考DATA

「課題解決支援サービスを知っている」と答える利用者の割合《隔年調査》
：(H29) 68.0%

「課題解決支援サービスに満足している」と答える利用者の割合《隔年調査》
：(H29) 85.9%

市町村立図書館等のサービス実施館数：(H30) 56館

③県民の読書ニーズに対応できるサービス機能の強化

多様なニーズに対応できるよう、県立図書館の参考図書や商用データベースの整備のほか、職員の資質向上のための研修を実施することにより、レファレンス・サービス*機能を強化した。

※レファレンス・サービス

資料・情報を求める利用者に対して図書館が行う文献の紹介・提供などの援助のこと。

❖参考DATA

「レファレンス・サービスを知っている」と答える利用者の割合《隔年調査》
：(H29) 59.6%

「レファレンス・サービスに満足している」と答える利用者の割合《隔年調査》
：(H29) 91.1%

④電子書籍を活用した図書館サービスの充実

スマートフォンやタブレット端末で閲覧できる電子書籍サービスを提供した。
なお、提供コンテンツ数の不足や利用冊数の減少が顕著であり、図書館総合電算システムの更新に合わせて平成30年12月末でサービスを一旦休止した。

❖参考DATA

県立図書館の電子書籍所蔵点数：(H30) 4,906点

年間利用点数：(H30) 84点

◆「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

(1) 読み聞かせお薦め絵本の紹介

親と子どもが心のふれあいを深め、子どもの健やかな成長を図るため、0歳から小学校低学年までを対象とした読み聞かせにお薦めの絵本「マザーズ・タッチ



文庫」53冊を選定し、リーフレットや毎週日曜日の秋田魁新報読書欄のほか、あきたの結婚・子育て応援情報ウェブサイト「いっしょにねっと。」及びTwitter「あきたブックネット」で紹介した。

◀県児童会館2F図書室にある「マザーズ・タッチ文庫」コーナーの絵本を読んでもらう子どもたち

(2) ホームページやブログ等を活用した情報発信

県立図書館のサービスやイベント等の情報を、ホームページや新しく開設したFacebookページを活用して定期的に発信し、図書館の利用促進を図った。

また、県の総合読書活動推進ウェブサイト「あきたブックネット」を「美の国あきたネット」内に特設ページとして移設し、施策やイベント等の情報を発信したほか、Twitter公式アカウント「あきたブックネット」では県内外の読書に関する新しい情報を随時提供した。



▲県立図書館ホームページ

館内の様々な案内やイベントの様子を定期的に発信している。



▲Twitter「あきたブックネット」

県内の書店や図書館と相互フォローし、県内外の読書に関する新しい情報を随時発信している。

❖参考DATA《アクセス数（H30）》

県立図書館ホームページ

241,872件

Twitter「あきたブックネット」

544,451件

2 学校・職場における読書活動の推進

◆あなたの「読みたい！」をサポートします

（1）就学前施設における読み聞かせの推奨

幼稚園・保育所・認定こども園等の訪問時や乳幼児研修会において、教材としての「絵本」の意義や、子どもが喜んで「絵本」に関わるための環境構成について、適宜指導・助言や講義を行った。

また、新規採用者に対しては、「豊かな心を育む絵本の読み聞かせ」と題して、読書及び読み聞かせに関する研修を実施した。



◀新規採用者研修の様子

○開催状況

平成30年11月2日（金）

於 秋田県総合教育センター

○講師

金田 昭三氏（児童文化研究家）

○参加者数 161名

❖参考DATA

受講者の肯定的評価の割合：（H30）90.0%

（2）子どもの発達の段階に応じた読書活動支援

①小・中学校における取組

各学校の児童生徒の読書推進につながるよう、ボランティアによる読み聞かせやビブリオバトルといった児童生徒の発達の段階に応じた読書活動サポートに関わる先進的な取組について、学校訪問の機会に情報提供を行った。

また、学校図書館・公立図書館・ボランティア等のネットワーク化による読書環境の充実についての情報を提供し、読書活動を支援した。

②高等学校における取組

読書への意識啓発と図書委員会*の主体的な活動の充実を図るとともに、家庭科の学習やボランティア活動等において、絵本の読み聞かせ等の実習を奨励し、将来、親になったときに子どもに読み聞かせをすることの意義について理解を深めた。

※図書委員会

生徒会活動の一つで、学校図書館に関する活動を行う委員会。

③特別支援学校における取組

学校訪問や会議の機会に、読書環境の重要性について情報提供し、更なる取組の実施を働きかけた。各校では、校舎の様々な場所を活用して幼児児童生徒の身近な場所に図書コーナーを設置し、手に取りやすく、興味・関心を高める工夫をするなど、環境の充実を図った。また、県立図書館等のセット貸出しを積極的に利用して、より多くの選択肢の中から本を選ぶことができるようにした。

❖参考DATA

校内の読書環境の整備と改善に定期的に取り組んでいる特別支援学校の割合
: (H30) 100%

(3) 学校図書館の活性化支援と地域開放

①情報提供や貸出しによる支援

小・中・高等学校32校を訪問し、学校図書館の環境整備や活用状況について把握するとともに、先進事例の紹介や改善のための助言を行った。

また、「読書活動だより むすぶ」で、「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた学校の特色ある取組を紹介した。

県立図書館の貸出しによる支援では、高等学校・特別支援学校の図書館担当者からのリクエストを受けて、図書セット資料の更新を行い、児童生徒の読書環境を整備した。

○平成30年度文部科学大臣表彰

【子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体】

- ・能代市立二ツ井小学校、井川町立井川義務教育学校、秋田県立視覚支援学校
- ・秋田市立土崎図書館
- ・ゆりかごの会（由利本荘市）

❖参考DATA

訪問により先進事例の紹介や助言を行った学校数 : (H30) 32校

▼学校図書館の取組の様子▼



❖参考DATA

県立図書館から学校図書館への年間貸出冊数：(H30) 18, 125冊

県立図書館の学校向け図書の年間購入冊数：(H30) 2, 365冊

②県立学校図書館職員等への研修機会の提供

県立学校の図書館関係職員や高等学校の図書委員会生徒を対象として、能力の向上や相互交流の活性化を図るため、図書館運営やサービスに関する具体的な技術についての研修会を実施した。



◀学校図書館職員等研修会の様子

○開催状況

平成30年8月2日(木)

於 秋田県立図書館3階多目的ホール

○内容

講義・ワークショップ

「ポスター・チラシの作り方」

○参加者数

教職員13名 生徒29名 計42名

❖参考DATA

「研修に満足した」と答える参加者の割合：(H30) 100%

③地域開放に向けた取組

保護者や地域の人々の協力による学校図書館の環境整備や図書室だより等による家庭や地域への学校図書館の活動に関する周知など、学校図書館に関わる活動をきっかけとした学校と地域との連携につながる取組について情報提供を行った。

(4) 大学図書館と県立図書館との連携強化

県立図書館と相互協力協定を締結している大学図書館(秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学)との間で、各館の所蔵資料を利用者が活用できるよう、相互貸借を推進した。

❖参考DATA

県立図書館と大学図書館との相互貸借における

年間貸出冊数：(H30) 236冊

年間借受冊数：(H30) 39冊

(5) 職場における読書環境の整備

①企業内文庫の設置

秋田ノーザンハピネッツ(株)が行っている企業内文庫「HONTOKU(ホントク)」について、社長と学生との座談会の中で紹介してもらい、その様子を動画配信サイトYouTubeで配信することにより、先進事例を紹介した。

また、読書活動推進パートナー支援事業を利用して設置された図書コーナーは、設置施設の従業員や関係者等にも利用されており、職場における読書環境の整備につながっている。(5～6ページ参照)

②女性の活躍を応援する読書活動の推進

出前講座等の機会のほか、Twitter「あきたブックネット」を活用し、買い物や通院の折に本に親しむことができるように読書活動推進パートナー支援事業で設置した図書コーナーの周知を図ったり、女性に人気のある本を紹介したりするなどにより、読書意欲の向上を図った。

❖参考DATA《H30県民意識調査》

「1日平均30分以上読書をしている」と答えた人の割合

30歳代：37.5%

40歳代：35.0%

読書をしない理由(「全く読まない」と回答した人のみ、2つまで回答)

①他に興味のあることやその活動が忙しい 37.6%

②仕事が忙しい 34.7%

③視力が衰えたため 21.1%

「1日平均30分以上読書をしている」と答える女性の割合 43.6%

(6) 仕事や就労に関連する読書支援

仕事上の課題解決や就労のための資格取得等を支援するため、県立図書館において、資料の整備や関係機関のパンフレットの提供等により「ビジネス支

援コーナー」の充実を図った。

また、県内の市町村立図書館等に、ビジネス支援サービスについての情報提供やコーナー設置の助言等を行った。

ビジネス支援コーナー ▶



❖参考DATA

「ビジネス支援サービスを知っている」と答える利用者の割合《隔年調査》

: (H29) 66.7%

「ビジネス支援サービスに満足している」と答える利用者の割合《隔年調査》

: (H29) 70.4%

市町村立図書館等のビジネス支援サービス実施館数: (H30) 18館

◆「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

○ 児童・生徒・学生の読書への興味・関心を高める取組

①小・中学生が主体的に読書ができるような授業づくりの紹介

児童生徒が図書資料を活用することにつながる授業実践や読書活動等での教科書教材と関連した図書の推奨など、各学校で取り組んでいる読書への興味・関心を高める教育活動について情報提供を行った。

②高校生の主体的な読書活動の充実

社会に出てからも読書時間を確保し、生涯にわたって読書に関心を持つことができるよう、学校間での先進事例の共有化を図った。

また、ビブリオバトルへの積極的な参加を促すとともに、地区大会では高校生による実行委員会が企画・運営に加わることで、主体的に読書活動に取り組み、仲間づくりやコミュニケーション力の向上につながる機会を提供した。

○開催状況

- ・中学生北鹿大会（於 大館市立栗盛記念図書館）
平成30年10月13日（土） 5名参加
 - ・高校生北鹿大会（於 大館市立栗盛記念図書館）
平成30年10月13日（土） 8名参加
 - ・中学生能代大会（於 能代市立図書館）
平成30年9月29日（土） 5名参加
 - ・高校生能代大会（於 能代市立図書館）
平成30年9月22日（土） 6名参加
- ／北鹿大会実行委員 5名
- ／能代大会実行委員 8名

- ・中学生秋田大会（於 ふれあーるAKITA）
平成30年9月30日（日） 5名参加
 - ・高校生秋田大会（於 ふれあーるAKITA）
平成30年9月30日（日） 11名参加 ／秋田大会実行委員13名
 - ・中学生由利本荘大会（於 由利本荘市文化交流センターカダーレ）
平成30年9月2日（日） 6名参加
 - ・高校生由利本荘大会（於 由利本荘市文化交流センターカダーレ）
平成30年9月2日（日） 4名参加 ／由利本荘大会実行委員5名
 - ・中学生及び高校生大仙大会（於 大仙市大曲交流センター）
平成30年9月29日（土） 中学生10名、高校生4名 ／実行委員3名
 - ・中学生及び高校生湯沢・横手大会（於 湯沢市役所）
平成30年10月6日（土） 中学生19名、高校生5名 ／実行委員7名
 - ・全県大会（於 イオンモール秋田1階セントラルコート）
平成30年10月20日（土） 地区大会を勝ち抜いた14名が参加
- ※開催内容の詳細については、30～31ページを参照

❖参考DATA

- 1か月1回以上学校図書館等を利用する高校生の割合：（H30）22.7%
- 1か月に本を1冊以上読む高校生の割合：（H30）61.0%

③特別支援学校における読書活動の充実

学校訪問や会議の機会に、読書環境の重要性について情報提供し、更なる取組の実施を働きかけた。各校では、児童生徒自身が校内外で読み聞かせや図書の紹介を行ったり、保護者や地域ボランティアによる読み聞かせを取り入れたりすることで、本に親しむことができる機会を数多く設けた。



◀読み聞かせボランティアによる学習

❖参考DATA

特別支援学校において様々な読書活動に関わり、本に親しんだ幼児・児童・生徒の割合：（H30）100%

④図書館における読書への興味・関心を高める取組

県立図書館において、小・中・高等学校のセカンドスクール*的利用（23校・169人）や、大学生のインターンシップを受け入れ、校種別に合わせた体験内

容を提供することにより、図書館の仕事や役割について理解を深めるとともに、読書に対する関心を高める取組を行った。なお、利用した生徒へのアンケートでは、図書館の仕事や役割について理解し、職業について考えるきっかけとなったという声が数多く寄せられた。

※セカンドスクール

児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験を行う授業。

図書館においては図書館職員の体験を行う。

❖参考DATA

「セカンドスクールの利用等に満足した」と答える児童・生徒・学生の割合
：(H30) 89.6%

「図書館の仕事・役割を理解した」と答える児童・生徒・学生の割合
：(H30) 100%



▲セカンドスクールにおける施設見学・職場体験の様子▲

3 地域における読書活動の推進

◆あなたの「読みたい！」をサポートします

(1) 様々なシーンで読書に親しむ活動の推進

①プロスポーツチーム等との連携による読書活動の推進

若者を中心とした県民の読書意欲を喚起するため、県民の注目度が高い県内のトップアスリート等による読書啓発動画を制作し、動画配信サイトYouTubeで配信したところ、視聴回数は2,471回となった。

<「おすすめの一冊」の紹介動画>

○秋田銀行女子バスケットボール部

伊藤美和子選手（キャプテン）、矢上若菜選手（副キャプテン）

- 北都銀行バドミントン部
米元小春選手、田中志穂選手



＜プロスポーツチーム運営会社社長と学生による座談会動画＞

- 秋田ノーザンハピネッツ（株） 水野勇気代表取締役社長
国際教養大学学生4名

- （株）ブラウブリッツ秋田 岩瀬浩介代表取締役社長
秋田県立大学学生3名

②様々な県民運動との連携による読書活動の推進

能代市との共催により開催した「ふるさとの文学と読書のつどい2018in能代」において、「秋田県花いっぱい運動の会」から、「花で読書を応援する」として、秋田県のオリジナル品種「NAMAHAGEダリア」を中心としたステージ花やトークショー用のアレンジメントの提供を受け、好評を博した。

また、「子育て応援団実行委員会」（ABS秋田放送・県・秋田市ほか）が主催する「すこやかあきた2018」に、秋田県読書活動推進本部（総合政策課・県立図書館）として参加し、来場者を対象とした絵本ブースを出展した。



花いっぱい運動の会協賛の ▲▶
NAMAHAGEダリアを
中心とした県産花のアレンジメント
（「ふるさとの文学と読書のつどい
2018 in 能代」会場）



▲「すこやかあきた2018」 出展ブース

❖参考DATA（「ふるさとの文学と読書のつどい」参加者アンケート）
「満足した」と答える参加者の割合：（H30）97.0%

③県児童会館での子どもの読書活動の推進

県子ども読書支援センター*が、県児童会館図書室に対し、子ども向けの図書の貸出しや、図書室の運営についての支援を行い、子どもが本に触れ、読書の楽しさを体験する機会を増やした。

※県子ども読書支援センター

子どもの読書活動に関する広報、啓発、調査研究活動や各種イベントの開催を行うことを目的に県立図書館内に設置されている。同支援センタースタッフが「えほんのへや」で子どもの読書に関する相談を受け付けるほか、県内の読書ボランティア団体や学校図書館、保育園、幼稚園を対象に読み聞かせ資料の貸出し等も行っている。

❖参考DATA
県子ども読書支援センターから県児童会館図書室への資料貸出冊数
：(H30) 837冊

④「子ども読書の日」の周知と取組奨励

「子ども読書の日」啓発ポスターを幼稚園や学校、社会教育施設、書店等に配布し周知を図るとともに、「こどもの読書週間」における市町村の読書関係事業の取組（全県199イベント）の情報を文部科学省のサイト「子ども読書の情報館」へ提供した。

2018年度「子ども読書の日」ポスター▶



○子ども読書の日

「子どもの読書活動の推進に関する法律」で4月23日が「子ども読書の日」と定められている。

これは、シェイクスピア（英国）とセルバンテス（スペイン）の命日である4月23日をユネスコが「世界・本と著作権の日」と宣言していることになむ。

○サン・ジョルディの日

日本では出版関係団体が、4月23日を親しい人に本を贈る「サン・ジョルディの日」として呼びかけている。

（サン・ジョルディはスペインの守護聖人名。カタルーニャ地方では命日に本の市が立ち、花と共に本を贈り合う習慣がある。）

⑤生涯学習としての読書活動の奨励

県民の総合的な生涯学習講座「あきたスマートカレッジ」の中で、「県民読書おすすめ講座～女流作家作品を読む～」(全8回)及び「恋と芸術の女流文学～北条常久特別講座～」(全3回)を開催したほか、講座受講者が中心となって昨年度発足した2つの自主学習グループが、合わせて16回の自主企画講座を開催した。

また、各市町村の要望に応じて生涯学習手帳を配布し、その活用を促すとともに、学習単位の認定と称号の授与を行った。



▲「県民読書おすすめ講座」の様子



▲須磨句会「定例句会」の様子

❖参考DATA

講座や読書活動で生涯学習手帳を活用している市町村の割合

: (H30) 100%

生涯学習手帳の活用について

○学習単位の認定

1単位：①県や市町村、大学、関連団体、企業等が主催する事業や講座の受講
90分

②個別学習（放送大学1講座、読書1冊、博物館・美術館等の見学）

③奨励活動（講座の指導者、ボランティア活動等）

○称号の授与

☆わかすぎ・マナビスト

50単位修得・・・高校生以下が対象

☆ブロンズ・マナビスト	100単位修得
☆シルバー・マナビスト	300単位修得
☆ゴールド・マナビスト	500単位修得
☆プラチナ・マナビスト	1000単位修得＋論文提出

(2) 市町村立図書館等の利用促進

①地域の人材や資料等の特徴を生かした利用促進

県や市町村の読書推進担当者が集まる会議等において、「子ども読書活動推進計画」の策定状況に関する情報提供や改定の呼びかけ、県教委の取組に関する情報提供を行った。

また、学校図書館を訪問し、先進的な取組事例等に関する情報提供を行った。

②県立図書館の支援による利用促進

県立図書館や県子ども読書支援センターの資料を市町村立図書館等へ貸し出し、住民の図書館利用や読書活動を支援した。

また、市町村立図書館等を延べ129館訪問し、図書館運営等に関する助言や情報提供を行ったほか、電話やメールでの相談に対応した。



▲市町村立図書館向けセット資料を貸出し▲

❖参考DATA

県立図書館から市町村立図書館等への年間貸出冊数：(H30) 22,556冊

県立図書館への市町村立図書館等からの相談件数：(H30) 124件

③市町村立図書館等職員の育成

市町村立図書館等の職員を対象とした図書館の運営に関する研修会を県立図書館で開催したほか、市町村立図書館等への出前型研修を実施した。

また、地域の読書推進の取組を主体的に実施できるリーダー的な役割を担う職員の育成を図った。



▲県立図書館での研修の様子



▲出前型研修会の様子

❖参考DATA

「研修に満足した」と答える参加者の割合：(H30) 100%

◆「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

(1) 読書ボランティア等への支援

①地域の読書活動を支える人づくり

市町村立図書館や学校・保育園等において読み聞かせ・朗読等を行う読書ボランティアを新規に養成するため、高校生、パパママ世代、シニア世代と世代別の講座を県内各地区において実施した。

また、全県のボランティアの参加を募り、各自のスキルの向上とネットワーク構築を図るための交流会を開催した。平成30年度は高校生も参加し、幅広い世代のボランティアが交流する機会となった。

○「世代別読み聞かせボランティア養成講座」

①高校生・パパママコース 3会場（大館市、秋田市、湯沢市）

参加者合計 95名

②シニアコース 1会場（美郷町）

参加者 29名

○「全県読み聞かせボランティア交流会」

ふれあーるAKITA（秋田市）

参加者 60名

【参加したボランティアの感想】

- ・自分たちの活動と違うところが参考になりました。
- ・いろいろな視点でお話を聞け、よかったです。高校生を入れて下さったのは大正解です。
- ・年に一度のこのような交流会は続けてください。



▲ボランティア養成講座



▲全県読み聞かせボランティア交流会

❖参考DATA

「研修に満足した」と答える参加者の割合：(H30) 97.0%

❖参考DATA

○読書ボランティアの活動状況

- ・地域内のみで活動しているボランティアが多く、広域的な交流の機会やネットワークの形成が課題となっている
- ・県内の公立図書館等で活動するボランティア団体数（各教育事務所調査より）

	県北地区	中央地区	県南地区	合 計
H28	32団体	49団体	27団体	108団体
H29	28団体	52団体	26団体	106団体
H30	32団体	52団体	26団体	110団体

②読み聞かせ団体等への活動支援

県内の読み聞かせ団体等の活動を支援するため、県立図書館と県子ども読書支援センターがボランティア団体等への資料の貸出しを行った。

❖参考DATA

県子ども読書支援センターからボランティア団体等への年間貸出冊数

: (H30) 6,422冊

県立図書館からボランティア団体等への年間貸出冊数：(H30) 714冊

(2)「秋田県読書フェスタ」の開催

10月20日(土)～11月4日(日)に秋田県読書フェスタを開催し、全県で171イベントを実施した。期間中は、中学生・高校生ビブリオバトル全県大会等の県主催事業のほか、市町村の図書館・公民館等で、おはなし会や図書展示、講演会等が行われ、子どもから大人まで幅広い世代の県民に、読書に親しむ機会を提供した。

❖参考DATA

「秋田県読書フェスタ」における県主催の読書イベントの参加人数

: (H30) 1, 363人

(3) デジタルアーカイブの活用促進

県内の教育機関や県立図書館等が所蔵している資料等の情報を一元的に検索できるポータルサイト「秋田県立図書館デジタルアーカイブ」により、県民への情報提供サービスを行った。

❖参考DATA

秋田県立図書館デジタルアーカイブの登録データ数

: (H30) 607, 284件

閲覧回数: (H30) 39, 515件

※デジタルアーカイブ

参加機関

県立図書館、あきた文学資料館、
県立博物館、近代美術館、
埋蔵文化財センター、
生涯学習センター、公文書館



4 県民協働による読書活動の推進

◆あなたの「読みたい!」をサポートします

(1) 県と市町村との協働による推進体制の強化

「秋田県読書活動推進連絡協議会」の全体会と地区会議を開催し、県民の読書環境の充実に向けた意見交換や優良事例の共有を行ったほか、「企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)」を活用した「読書活動推進パートナー支援事業」を8市町村で実施するなど、県と市町村が協働で地域における読書環境の充実に取り組んだ。

平成30年度秋田県読書活動推進連絡協議会の活動

○全体会と県内3地区の地区会議を開催

全体会 平成30年5月11日（金）秋田市

地区会議 県北地区 平成30年8月28日（火）能代市

県央地区 平成30年8月29日（水）由利本荘市

県南地区 平成30年8月21日（火）美郷町

○役員

会長 総合政策課長

副会長 県北地区 能代市企画部次長兼総合政策課長

県央地区 由利本荘市総合政策課長

県南地区 美郷町生涯学習課長

※任期2年

○構成

市町村 企画担当課長／教育委員会読書活動推進担当課長

県 総合政策課長／教育庁総務課長・生涯学習課長

○平成30年度テーマ

「身近な所で読書に親しむことができる環境づくりを進めていくためには」

（2）県民の寄贈によるリレー文庫の普及

子どもたちの身近な場所での読書環境づくりや、大人の読み聞かせを進めるため、県民から寄贈された絵本や児童書を手入れした上で、保育所や医療機関などに配布し、子どもたちに読書の楽しさをリレーした。

◀「読んだッチ・リレー文庫」のポスター



❖参考DATA

読んだッチ・リレー文庫の状況：(H30)

寄贈冊数 1,195冊、寄贈者数 68人

配布施設数 39か所

（3）青少年健全育成における読書活動の推進

秋田県青少年の健全育成と環境浄化に関する条例に基づき青少年の健全な育成を図る上において有益な図書を推奨するために、県公式ウェブサイト

「美の国あきたネット」への掲載などを行い、県民への周知を図った。

2018年11月27日推奨 優良図書

クニマスは生きていた！

著者：池田まき子 発行所：株式会社 汐文社

■推奨理由

かつて田沢湖では、国鱒（クニマス）漁を生業にして生活していた人たちがいました。けれども、水力発電と農業用水のためのダム湖にするため酸性水が導入され、湖は魚が住めなくなってしまう。もちろん田沢湖にしかいなかった国鱒（クニマス）も姿を消しました。この本では、田沢湖の現在に至るまでの史実がわかりやすく綴られ、最後のクニマス漁師・久兵衛さんの強い思いも伝わってきます。郷土秋田を担う次世代の青少年が、自然とどのように向き合っていたらよいのか深く考えさせられる一冊です。（出版は2017年11月）



（４）高齢者への読書活動推奨

高齢者の読書活動を一層推進するため、軽費老人ホームなど、老人福祉施設へ指導監査のため訪問する際には、高齢者の読書の推進・地域の図書館の活用方法等について情報提供した。

また、高齢者が参加する出前講座では、図書館から大活字本やシニア向けの健康やファッションに関する本などを借用して紹介し、高齢者の読書意欲を喚起した。

高齢者が参加した出前講座

1月16日（水）秋田市南部女性セミナー （参加者12名）

（５）視覚障がい者の読書推進

障がい者の読書機会の充実を目指して、秋田県点字図書館においてボランティアを中心に点字図書や音声図書等の製作を行い、視覚障がい者への図書提供サービスの向上に努めた。

○製作	点字図書	：	145	タイトル
	音声図書	：	113	タイトル
○貸出し	点字図書	：	297	タイトル
	音声図書	：	6,485	タイトル
	定期刊行物	：	9,735	タイトル

（６）民間企業・団体等との連携による読書活動の推進

①雑誌スポンサー制度*の充実

企業が雑誌のスポンサーとなり、県立図書館や市町村立図書館等への雑誌の提供を行い、雑誌コーナーの充実を図った。

また、県立図書館では、企業活動を県民に周知するための雑誌スポンサー紹介コーナーの設置や、スポンサー同士の情報交換・研修を目的とした交流会を開催した。



▲雑誌スポンサー紹介コーナー



▲雑誌スポンサー交流会「ビジネスカフェ」

※雑誌スポンサー制度

図書館の雑誌に民間企業等の情報発信を組み込み、雑誌コーナーの充実を図ることを目的とした資料寄贈の制度。選書は図書館で行い、スポンサー企業は購読料を負担する。対象となる雑誌には専用カバーを取り付けてあり、スポンサーとなっている企業名や広告を表示することができる。

❖参考DATA

公立図書館のスポンサー企業数：(H30) 68企業

②外部機関等と連携した図書館利用促進

県立図書館の情報提供機能を一層充実させるため、県の関係機関等と連携した展示等を行った。



▲埋蔵文化財センターと連携した特別展示



▲秋田魁新報社との連携による『秋田魁新報紹介コーナー』

❖参考DATA

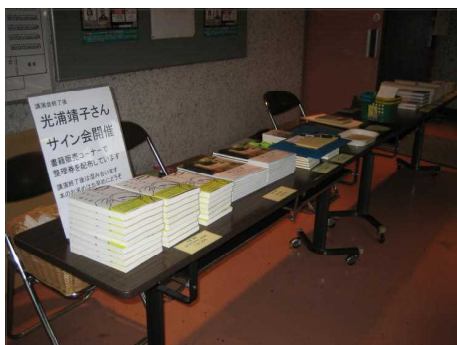
外部機関等と連携したイベント開催回数：(H30) 57回

イベント参加者数：(H30) 11,852人

③書店団体等と連携した読書活動の推進

書店の多くが、市町村立図書館等と連携して地域の読書拠点となっていることから、イベントポスターの配布やSNSでの情報のシェアを行った。

また、秋田県書店商業組合と連携して、「ふるさとの文学と読書のつどい2018 in能代」においてゲスト出演者であるタレントの光浦靖子氏の著書等の販売とサイン会を行ったほか、各読書推進事業の会場で絵本等の販売を行い、参加者が直接本に触れる機会を提供するなど、県民の読書活動を推進した。



▲「ふるさとの文学と読書のつどいin能代」会場の書籍販売ブース



▲公式Twitter「あきたブックネット」
情報提供(県内書店Twitterをリツイート)

◆「読書は楽しい！」の気持ちを広げます

(1)「ビブリオバトル」の普及と大会開催

中学生・高校生ビブリオバトルの地区大会を県内6地区で実施し、88名が出場した。10月20日(土)の全県大会には選抜された14名が出場し、チャンプに選ばれた出場者が、平成31年1月及び3月に東京で行われた全国大会に県代表として参加した。

また、全県大会の会場で、各高校図書委員会のお薦め本の紹介パネルの展示や書店による書籍販売を行うなど、出場者、来場者がともに新たな読書のきっかけを得ることのできる場を提供した。



◀全県大会の決勝に進出した
中・高校生バトラー

○平成30年度ビブリオバトル秋田県大会 に進出した本

【中学生の部】

「友だち幻想 人と人とのくつながり」を考える（菅野仁 著） **チャンプ本**

「桜風堂ものがたり」（村山早紀 著） **準チャンプ本**

「海の底」（有川浩 著）

「明日もまた生きていこう」（横山友美佳 著）

「ユケ、鉄路 夜行急行「北星」北東北突破戦」（早狩武志 著）

「ラメルノエリキサ」（渡辺優 著）

【高校生の部】

「キャロリング」（有川浩 著） **チャンプ本**

「青い鳥」（重松清 著） **準チャンプ本**

「オー！ファーザー」（伊坂幸太郎 著）

「はなちゃんのみそ汁」（安武信吾他 著）

「ぼくのにゃんた」（鈴木康弘 著）

「今日もひとり、ディズニーランドで」（ワクサカソウヘイ 著）

「余命10年」（小坂流加 著）

「終末のフール」（伊坂幸太郎 著）

❖参考DATA

ビブリオバトル参加後「読書がしなくなった」と答える参加者の割合

: (H30) 97.4%

（2）「読書絵はがきコンクール」の開催

平成30年度は「読書絵はがきコンクール」は開催しなかったが、「読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業」の「POP作り研修講座」により、お薦め本を手書きのイラストや言葉を添えて紹介するPOPの作り方を小学生～高校生に学んでもらい、地域の図書館で本の紹介に活用した。

（3）幼少期からの読書活動推進体制の強化

市町村の読書推進担当者が出席する会議等において、「子ども読書活動推進計画」の策定状況や県教委が実施する施策について報告し、子どものための読書環境整備への理解と協力を求めた。

また、市町村訪問等の機会を活用して読書推進を担う現場の課題やニーズを把握して施策への反映に努めた。

（4）「県民読書の日」の啓発

11月1日の「県民読書の日」に合わせ、能代市ほか関係団体と実行委員会を組織して「ふるさとの文学と読書のつどい2018in能代」を実施するなど、県民の

読書活動推進のための各種イベントの開催や広報等を行った。

また、「県民読書の日」制定記念事業として創設された「ふるさと秋田文学賞」の作品募集や受賞作品集の刊行を行い、県民の読書意欲を喚起した。



▲第1部 「県民読書の日」制定記念
第5回ふるさと秋田文学賞 表彰式



▲第2部 トークショー
「読書芸人光浦靖子のステキな読書の世界」

「ふるさと文学と読書のつどい2018 in 能代」の概要

1 目的

「県民読書の日」を契機として、ふるさが生んだ文学に光を当て、秋田の人や風土、歴史をたどりながら、「秋田ならではの知の豊かさ」を再認識するとともに、読書をテーマとしたトークショーを開催地や民間団体と連携して実施することにより、県民総ぐるみで「日本一の読書県」を目指す読書活動の気運を高める。

2 主催

読書のつどい2018 in 能代実行委員会
(能代市・秋田県 ほか)

3 協賛

公益社団法人秋田県市町村振興協会

4 協力

秋田県書店商業組合 秋田県花いっぱい運動の会

5 開催日時

平成30年10月27日(土) 13:30～15:30※終了後サイン会

6 会場

能代市二ツ井公民館

※JR二ツ井駅及び能代市二ツ井庁舎から会場までシャトルバスを運行

7 参加人数

約320名

8 内容

第1部 「県民読書の日」制定記念 第5回「ふるさと秋田文学賞」表彰式

第2部 トークショー「読書芸人光浦靖子のステキな読書の世界」

(出演) 光浦 靖子(タレント)

元祖爆笑王(放送作家/能代市出身)

第5回「ふるさと秋田文学賞」

○受賞作品

【小説の部】

《ふるさと秋田文学賞》

ことねとあまね

渡部麻実（神奈川県横浜市／秋田市出身）

《同 佳作》

入道崎恋歌

畠山政文（岩手県花巻市）

【随筆・紀行文の部】

《ふるさと秋田文学賞》

神代駅から

渡辺礼司（仙北市）

《同 佳作》

夢のあと

堀川茂進（湯沢市）

○応募状況

- ・応募作品数 117点（小説71点 随筆・紀行文46点）
- ・県内49点 県外67点、国外1点（ドイツ）

❖参考DATA

「ふるさとの文学と読書のつどい」参加者アンケートで、
「県民読書の日」を知っていると答える参加者の割合

: (H30) 75.0%



第5回ふるさと秋田文学賞受賞作品集▶

（5）読書の楽しさを伝えるために活動している県民の紹介

絵本の読み聞かせや人形劇に取り組むボランティアグループ、郷土にゆかりのある作家の研究会、一冊の本を「点字」に訳す活動をしているボランティアなどを取材し、行動人ウェブサイトで紹介した。平成30年度の紹介者数は18人で、平成27年度からの累計は729人を数える。

▼グループ「フッチー広場で『あそぼ！』」の活動



※詳細は「行動人」紹介ウェブサイト参照

5 効果測定項目と数値目標・実績一覧

(表の見方)

◆「施策の柱」欄

- I 家庭における読書活動の推進19項目
- II 学校・職場における読書活動の推進21項目
- III 地域における読書活動の推進13項目
- IV 県民協働による読書活動の推進11項目
-64項目

	施策の柱	施 策	効果測定項目	数値実績					ページ
				H27	H28	H29	H30	R2目標	
1	Ⅰ	「家族で読書」運動の提唱と普及	週3時間以上(または1日30分以上)読書をする人の割合	54.4%	47.9%	40.1%	44.1%	70.0%以上	8
2		子ども向け資料の充実	0～12歳の年間新規登録者数	510人	450人	455人	451人	570人	8
3		子どもの読書に関する相談活動、おはなし会等の充実	相談件数	140件	139件	224件	286件	150件	8
4			おはなし会実施回数	21回	24回	24回	24回	23回	8
5			おはなし会参加人数	580人	592人	577人	676人	690人	8
6		医療・保健分野との連携による子どもの読書習慣づくり	協力病院等数	—	184施設	179施設	—	50施設	9
7		中・高校生の読書推進	13～18歳の年間新規登録者数	219人	201人	157人	179人	300人	9
8		高齢者向け資料の整備、シニアコーナーの充実	60歳以上の年間新規登録者数	297人	292人	277人	260人	360人	10
9		高齢者などへの読書支援	電話(対面)朗読ボランティア活用者実数	9人	11人	14人	12人	50人	10
10		県立図書館の資料の整備と充実	年間購入冊数	14059冊	14,894冊	13,967冊	14,250冊	※1 約13,500冊	10
11		生活課題解決のための読書や図書館利用の促進	「取組を知っている」と答える利用者の割合	4.0%	隔年調査	68.0%	隔年調査	30.0%	11
12			「取組に満足している」と答える利用者の割合	—	上記と同時調査	85.9%	上記と同時調査	60.0%	11
13			市町村立図書館等のサービス実施館数	40館	43館	51館	56館	50館	11
14		県民の読書ニーズに対応できるサービス機能の強化	「レファレンス・サービスを知っている」と答える利用者の割合	33.0%	隔年調査	59.6%	隔年調査	50.0%	11
15			「レファレンス・サービスに満足している」と答える利用者の割合	—	上記と同時調査	91.1%	上記と同時調査	60.0%	11
16		電子書籍を活用した図書館サービスの充実	電子書籍所蔵点数	4,906点	4,906点	4,906点	4,906点	10,000点	11
17			年間利用点数	289点	70点	24点	84点	1,000点	11
18		ホームページやブログ等を活用した情報発信	県立図書館ホームページのアクセス数	265,337件	250,146件	243,945件	241,872件	270,000件	13
19			「あきたブックネット」のアクセス数	908件	4,932件	9,347件	544,451件 (Twitter) ※5	2,000件	13
Ⅰ 家庭における読書活動の推進 計19項目									

※1～H26の購入実績を基準とみなした冊数。

※2～平均的な単価を1,600円として現行予算で算出した冊数。

※3～H27から訪問形態を各市の中央図書館での集合型に変更。相談が集約される傾向にあるため。

※4～市町村立図書館等を通じた地域ボランティア支援の定着化傾向とH27実績見込みから推定。

※5～H30.7月にホームページ「あきたブックネット」を県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」内に移設したことによりアクセス数の集計ができなくなったこと、H29までに数値目標を達成していること、H30からTwitter公式アカウント「あきたブックネット」を開設していることから、同公式アカウントの閲覧数を数値実績として掲載。

	施策の柱	施 策	効果測定項目	数値実績					ページ
				H27	H28	H29	H30	R2目標	
20	Ⅱ	就学前施設における読み聞かせの推奨	受講者の肯定的評価の割合	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	13
21		特別支援学校における取組	校内の読書環境の整備と改善に定期的に取り組んでいる学校の割合	80.0%	100%	100%	100%	100%	14
22		学校図書館の活性化支援 (情報提供や貸出による支援)	小・中学校、高等学校、特別支援学校への事例紹介数	7件	14件	13件	32件 (訪問学校数)	(累計) 50件	14
23			学校図書館への年間貸出冊数	9,737冊	10,942冊	11,147冊	18,125冊	10,000冊	15
24			学校向け図書の年間購入冊数	355冊	2,419冊	1,966冊	2,365冊	※2 300冊	15
25		県立学校図書館職員等への研修機会の提供	「研修に満足した」と答える参加者の割合	—	96.0%	96.0%	100.0%	80.0%	15
26		地域開放に向けた取組	学校図書館を地域に開放している学校の割合（隔年調査→5年毎調査）	(H26) 2.6%	5.1%	—	—	10.0%	15
27		大学図書館と県立図書館との連携強化	大学図書館との相互貸借の年間貸出冊数	401冊	349冊	367冊	236冊	350冊	16
28			大学図書館との相互貸借の年間借受冊数	43冊	66冊	47冊	39冊	60冊	16
29		職場における読書環境の整備 (企業内文庫の設置)	「1日平均30分以上読書をしている」と答える30～40歳代の割合	30歳代 46.1%	35.2%	29.6%	37.5%	55.0%	16
				40歳代 47.7%	32.4%	32.1%	35.0%	55.0%	16
30		女性の活躍を応援する読書活動の推進	「1日平均30分以上読書をしている」と答える女性の割合	52.6%	47.8%	41.3%	43.6%	70.0%	16
31		仕事や就労に関連する読書支援	「取組を知っている」と答える利用者の割合	4.0%	隔年調査	66.7%	隔年調査	30.0%	17
32			「取組に満足している」と答える利用者の割合	—	上記と同時調査	70.4%	上記と同時調査	60.0%	17
33			市町村立図書館等のサービス実施館数	13館	15館	14館	18館	20館	17
34		小・中学生が主体的に読書ができるような授業づくりの紹介	「読書が好き」と答える児童生徒の割合（H30から調査なし）	55.1%	55.1%	55.0%	—	70.0%	17
35			「週に1回以上学校図書館等に行く」と答える児童生徒の割合（H30から調査なし）	13.7%	13.4%	12.6%	—	20.0%	17
36		高校生の主体的な読書活動の充実	1か月に1回以上学校図書館等を利用する生徒の割合	19.3%	22.3%	22.8%	22.7%	40.0%	18
37			1か月に本を1冊以上読む生徒の割合	59.9%	57.6%	60.4%	61.0%	70.0%	18
38		特別支援学校における読書活動の充実	様々な読書活動に関わり、本に親しんだ幼児・児童・生徒の割合	75.0%	97.2%	100%	100%	100%	18
39		図書館における読書への興味・関心を高める取組	「セカンドスクールの利用等に満足した」と答える児童・生徒・学生の割合	—	93.8%	77.8%	89.6%	80.0%	19
40			「図書館の仕事・役割を理解した」と答える児童・生徒・学生の割合	—	95.3%	97.8%	100.0%	80.0%	19
Ⅱ 学校・職場における読書活動の推進 計21項目									

	施策の柱	施 策	効果測定項目	数値実績					ページ
				H27	H28	H29	H30	R2目標	
41	Ⅲ	様々な県民運動との連携による読書活動の推進	「満足した」と答える参加者の割合	—	79.7%	74.4%	97.0%	80.0%	21
42		県児童会館での子どもの読書活動の推進	県子ども読書支援センターから県児童会館図書室への資料貸出冊数	1,226冊	1,033冊	1,051冊	837冊	1,200冊	21
43		「子ども読書の日」の周知と取組奨励	実施市町村数と取組件数	25市町村 150件	25市町村 195件	25市町村 220件	25市町村 199件	25市町村 200件	21
44		生涯学習としての読書活動の奨励	講座や読書活動で生涯学習手帳を活用している市町村の割合	72.0%	84.0%	96.0%	100.0%	100%	22
45		県立図書館の支援による利用促進	市町村立図書館等への年間貸出冊数	23,747冊	22,682冊	24,403冊	22,556冊	22,000冊	23
46			市町村立図書館等からの相談件数	199件	175件	182件	124件	※3 220件	23
47		市町村立図書館等職員の育成	「研修に満足した」と答える参加者の割合	—	96.5%	100.0%	100.0%	85.0%	24
48		地域の読書活動を支える人づくり	「研修に満足した」と答える参加者の割合	—	100%	97.1%	97.0%	85.0%	25
49		読み聞かせ団体等への活動支援	県子ども読書支援センターから読書ボランティア団体等への年間貸出冊数	2,776冊	2,720冊	3,483冊	6,422冊	2, 500冊	25
50			県立図書館からボランティア団体等への年間貸出冊数	748冊	542冊	545冊	714冊	※4 700冊	25
51		「秋田県読書フェスタ」の開催	県主催の読書イベントの参加人数	1,571人	1,636人	1,075人	1,363人	1,900人	26
52		秋田県立図書館デジタルアーカイブの活用促進	登録データ数	601,879件	606,957件	607,193件	607,284件	615,000件	26
53			閲覧回数	29,522件	33,400件	37,225件	39,515件	30,000件	26
地域における読書活動の推進 計 1 3 項目									

	施策の柱	施 策	効果測定項目	数値実績					ページ
				H27	H28	H29	H30	R2目標	
54	Ⅳ	県と市町村の協働による推進体制の強化	読書活動に関する市町村との意見交換会における意見等についての施策への反映	反映状況は年次報告書に記載					
55		県民の寄贈によるリレー文庫の普及（H29年度～「リサイクル文庫」から名称を変更）	リレー文庫寄贈冊数 配布施設数	2,418冊 49施設	2,363冊 129施設	2,269冊 86施設	1,195冊 39施設	1,800冊 80施設	27
56		視覚障がい者の読書推進	点字・音声による図書の製作・貸出数	製作251件 貸出7,399件	製作243件 貸出7,298件	製作353件 貸出6538件	製作258件 貸出6782件	製作550件 貸出8,200件	28
57		雑誌スポンサー制度の充実	公立図書館のスポンサー企業数	57企業	65企業	70企業	68企業	60企業	29
58		外部機関等と連携した図書館利用促進	イベント開催回数	61回	64回	67回	57回	60回	29
59			イベント参加者数	23,267人	21,070人	22,313人	11,852人	23,000人	29
60		「ビブリオバトル」の普及と大会開催	ビブリオバトル参加後「読書がしなくなった」と答える参加者の割合	—	95.6%	92.8%	97.4%	80.0%	31
61		「読書絵はがきコンクール」の開催	作品展を実施する図書館等の数	1館	4館	2館	2館	6館	31
62		幼少期からの読書活動推進体制の強化	秋田県子ども読書活動推進会議における協議内容の施策への反映	反映状況は年次報告書に記載					
63		「県民読書の日」の啓発	「県民読書の日」を知っていると答える参加者の割合	—	78.8%	38.5%	75.0%	50.0%以上	33
64	読書の楽しさを伝えるために活動している県民の紹介	読書活動関連「行動人」数(累計)	125人	307人	711人	729人	625人	33	
Ⅳ 県民協働による読書活動の推進 計 11 項目									



© 2015 秋田県んだッチ